

新年に向けて

J A しずない女性部部長 谷岡 豊子



新年明けましておめでとうございます。

組合員、各関係機関の皆様におかれましては、ご健勝にて輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

農業は、政策と天候に左右される職業と言われますが、昨年はまさにそんな一年でした。

7月、8月の猛暑に耐え、豊作を迎えられるとの喜びも束の間、10月には、政府からT P Pへの参加を本格的に検討している旨の発言があり、日本農業、北海道農業が壊滅的打撃を受けるのではないかとという大きな不安を抱いております。

しかしながらこのような時代の中でもJ A しずない女性部では、しずない農業まつりへの出店、料理教室の開催、ホツカイドゥ競馬

応援ツアー、もぎたて朝市等の活動を通し、部員間の交流を図り、農業経営のパートナーとして、日々頑張っております。

料理教室では、漁協女性部と交流を図ったり、存続がかかっていたホツカイドゥ競馬を女性部の活動の中でも応援しようと、門別競馬場へ行き、競馬初体験の部員もいた中、戸惑いながらも大いに楽しんだり、初めての活動も試みた一年となりました。

また、もぎたて朝市で販売する野菜作りでは、エゾシカやアライグマ等の被害もあり、苦勞が多いものとなりましたが、その甲斐もあり、開催期間中は毎週盛況のうちに終了することが出来ました。今年も一農村女性として、家族、地域住民の健康を守るため、農畜産物の生産・供給に励みたく思っております。

組合員、各関係機関の皆様や女性部員のご協力、ご支援をお願い致し、実り多き年であることをご祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年を迎えて

J A しずない青年部部長 神垣 進



新年明けましておめでとうございます。

組合員、各関係機関の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年は、春先の低温、7月の長雨、そして、8月には全国的に記録的な猛暑となり、野菜では生育の遅れ、牧草では収穫時期のずれこみ等、様々な農作物に多大な影響、被害が出ました。

農業情勢においては、政権交代を果たした民主党の政権公約でもあったE P A、F T A交渉に加え、国民に対して何の説明もないまま菅首相からT P P参加への所信表明がありました。

政府は、食料自給率50%を十年後の目標として設定しておりますが、T P Pを締結した場合には、食料自給率が16%まで落ち込むと

いう試算もあり、日本の食料基地でもある北海道農業が壊滅的な状況に陥ることは想像に難くなく、今後の動向を見守っていききたいと思っております。

青年部活動につきましては、一昨年はインフルエンザ流行の影響で開催を自重した「ハロウィン」を静内そ菜振興会青年部、豊畑青年部の強力により、無事開催することが出来ました。

ハロウィンかぼちゃに思い思いの顔を描く子どもたちの表情は真剣そのもので、それを青年部員たちがくり抜き、自ら描いた顔がジャコランタンになったときの子どもたちの嬉しそうな顔が非常に印象的でした。

今年は、昨年よりも一層団結力を高め、部員全員が一丸となり、様々なことに挑戦していける青年部を目指しております。

本年も組合員の皆様をはじめ、各関係機関の皆様にとりまして、良き一年となりますことをご祈念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。